

事務事業名	公共交通（路線バス）利用者証交付事業	事業期間	～	年度	係内番号	12
担当部署	健康福祉部	地域福祉課	福祉総務係	連絡先	303	

政策番号	01	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	地域福祉計画	0202	日常生活支援（地域福祉課題への対応）		
			基本計画②	01	地域福祉計画	0202	日常生活支援（地域福祉課題への対応）		
			実行計画	01	地域福祉計画	0202	日常生活支援（地域福祉課題への対応）		

予 算 事 業 名	社会福祉総務費一般事業費	会計コード	01	款	03	項	01	目	01	事業	03
-----------	--------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
市内在住の65歳以上の方や障害のある方、65歳以上の別荘所有者で家屋敷課税者への利用者証発行。

現状と背景
(どうして)
平成11年8月31日より市内4路線で運行を実施し、平成14年4月8日より専用バス3台で市内全域12路線に拡大、平成15年11月1日からダイヤ改正し、13路線となり、平成22年から平成23年の公共交通全体の見直しの中で現在11路線で運行していた。平成28年10月から、路線バスと福祉バス・ビーナちゃんを再編し現在17路線で運行している。

目的
対象
受益者
(誰のために)
茅野市民の65歳以上の高齢者、障害者。また、65歳以上の別荘所有者で家屋敷課税者。
対象
(直接働きかける)
同上

意 図
(どんな状態にしたいか)
対象者に公共交通（路線バス）利用者証を発行しご活用いただくことで、移動手段として公共交通路線バスを利用する際に、長距離移動における費用負担の軽減を図る。

手段・方法
(どうやって)
毎月65歳になる方へ利用者証を郵送で発行する。また、65歳到達者介護保険説明会にて公共交通（路線バス）利用者証の説明を行っている。

活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	利用者証発行	発行枚数	枚	年間発行枚数
2					
3					

成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1				
2					

変更履歴	
変更履歴	

項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業費等(a)	円	321,062	152,603	175,000		
財源内訳						
国庫支出金	円					
県支出金	円					
地方債	円					
その他特定財源	円					
一般財源	円	321,062	152,603	175,000		
発行枚数	目標	900	900	900		
	実績	1,015	986			
	達成率	112.78	109.56	-	-	-
活動指標	目標	-	-	-	-	-
	実績	-	-	-	-	-
	達成率	-	-	-	-	-
成果指標	目標	-	-	-	-	-
	実績	-	-	-	-	-
	達成率	-	-	-	-	-

備考
成果とすべき利用頻度や利用者数等について、実績の測定が困難であるため、当面成果指標の設定はしない。

事務事業名	公共交通(路線バス)利用者証交付事業		事業期間	~	年度	係内番号	12
担当部署	健康福祉部	地域福祉課	福祉総務係			連絡先	303

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	析	現在は成果指標の設定は行っていない。	現在は成果指標の設定は行っていない。		
価値	成果	別荘所有者への広報冊子に公共交通(路線バス)利用者証の説明を載せたことから、発行希望者が増加した。	バス利用者のうち、公共交通(路線バス)利用者証を使用している人数が不明なため、市民に対して民生児童委員から利用頻度のアンケート実施。別荘所有者に対して、申請時に使用目的等アンケートを実施。			
	総合評価課題	発行件数が増加しているが、実際にバス利用者のうち、公共交通(路線バス)利用者証を使用している人数が不明なため調査が必要。	アンケート調査から公共交通(路線バス)利用者証の認知度が低い。また、65歳の年齢で配布しても自家用車で移動する方が多いため、公共交通(路線バス)利用者証の必要性が低い。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性の内 策び容	公共交通(路線バス)利用者証発行者へアンケート調査を実施し、利用者証の利用状況を調査する。	アンケート調査から公共交通(路線バス)利用者証の認知度が低いため広報が必要。 65歳達成者全員に利用者証を発行しているが、現状は自家用車利用が多いため、公共交通(路線バス)利用者証の利用度は少ない。 この発行方法について、対象年齢引き上げ検討や希望者のみ発行等が可能か検討が必要である。			
作成担当者	小林 真琴	小林真琴				
最終評価責任者	井出 弘	井出 弘				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	諏訪中央病院組合負担金	事業期間	～	年度	係内番号	06
担当部署	健康福祉部	高齢者・保険課	医療保険・年金係	連絡先	322	

政策 番号	01	基本 計 画 体 系	項目	計画CD	計画名称	施策の 柱CD	施策の柱の名称	実行計画 の施策の 柱におけ る指標と の関連度	中					
			基本計画①	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)							
			基本計画②	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)							
			実行計画	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)							
予 算 事 業 名		諏訪中央病院組合負担金			会計コード	01	款	04	項	01	目	01	事業	10
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		諏訪中央病院組合に対し、地域医療の充実と安定経営のために、総務省の地方公営企業繰出し基準に基づき、茅野市負担分(85%)を拠出する。(中央病院及び看護専門学校) ・保健衛生に要する事務経費 ・利子分 ・小児医療に要する経費 ・第3期単独工事分 ・基礎年金拠出金 ・共済費追加費用 ・4条企業償還元金 ・元利償還金 ・運営費不足分												
現状と背景 (どうして)		加速する少子高齢化社会に加え、医療をとりまく環境が変化しており、医療施設も患者から選別される時代に備え、安定かつ継続的な医療を維持する必要があるため、老朽化の施設の改修及び基幹設備の更新を含め抜本的な見直しが必要であるため。												
目的	対象 (誰のために)	諏訪中央病院組合(市民)												
	対象 (直接働きかける)	諏訪中央病院組合(市民)												
	意 (どんな状態にしたいか)	設備環境等の改善を図ることで、患者の立場に立った医療提供と全人的医療の推進と高度医療の充実を図り地域医療に貢献する。また、諏訪中央病院組合の安定経営に寄与する。												
手段・方法 (どうやって)	諏訪中央病院に対し、繰出し基準に基づき繰出しを行う。(※特別交付税措置あり) ・収益的収支繰入金(3条関係)・企業償還元金 有形固定資産購入費(4条関係) ・経営状況の検証及び繰出し基準の検討を行う。													
	行政が活動することで作り出すもの													
評価 指標 の 作 成	活動 指 標	1	地域医療の充実と安定経営	負担金拠出	6	各会計へ年2回に分けて拠出する。	6							
		2												
		3												
	変更 履歴													
成果 指 標	成果・効果は何?		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値						
	1	経営安定	医療収支比率	%	(医療費用/医療収益) × 100			100						
	2	経営安定	総収支比率	%	(総費用/総収益) × 100			100						
	変更 履歴													

実 施 状 況 考	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		事業費等(a)	円	458,289,000	634,833,000	592,846,000		
		国庫支出金	円					
		県支出金	円					
		地方債	円					
		その他特定財源	円					
	活 動 指 標	負担金拠出	目標	6		6		
			実績	6		6		
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	-
		-	目標	-				
			実績	-				
			達成率	%	-	-	-	-
		成 果 指 標	医療収支比率	目標	%	100	100	100
実績	%			95.38	-	-	-	
達成率	%			95.38	-	-	-	
総収支比率	目標		%	100	100	100		
	実績		%	97.40	-	-	-	
達成率	%	97.40	-	-	-			
備 考	成果指標は、決算確定後に入力予定。							

事務事業名	諏訪中央病院組合負担金		事業期間	~	年度	係内番号	06
担当部署	健康福祉部	高齢者・保険課	医療保険・年金係		連絡先	322	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		繰出金の見直しを行い、新たに第3期改築工事に係る病院単独事業に対し、繰入れ(5年間)と、繰出基準に基づき、小児医療に係る不足分の繰出しを行う。	繰出金の見直しを行い、新たに第3期改築工事に係る病院単独事業に対し、繰入れ(5年間)と、繰出基準に基づき、新たに特例交付税措置のある「基礎年金拠出金」と「共済追加費用」の繰出しを行う。		
総合評価	成果	繰入れ基準に基づき繰入れを行った。企業債利子利率が当初見込みより少なかったことによる繰出金の減。	新たな繰出しと病院の経営努力により、黒字決算となった。			
	課題	赤字経営が続いていることから、組織市村での病院経営努力ではどうにもならない繰出基準項目(基礎年金拠出金・児童手当・共済追加費用負担額)について増額の協議が必要である。地域医療の充実と安定経営のために今後も事業継続の必要がある。	地域医療の充実と安定経営のために今後も事業継続の必要があるが、将来、繰出額については、協議の必要がある。			
改革	翌々年度方向性	成果 現状維持	現状維持			
	コスト	縮小	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性の内容	病院事業分 平成30年度に新たに第3期改築工事に係る病院単独事業に対し、繰入れ(5年間)行う。また、令和元年から、繰出し基準の内、基礎年金拠出金、共済追加費用に対する費用の繰入れを行う。この繰出し基準は病院の経営改善状況を検証する中で見直しを行う。やすらぎの丘分は、令和元年度で繰入れを終了。	病院事業分 令和4年度までは現状の繰出しを継続し、病院経営の安定化を図る。 看護学校分 老朽化に伴い、維持修繕等費用増加が見込まれる。			

作成担当者	笹岡俊江	笹岡俊江			
最終評価責任者	平澤精一	平澤精一			
最終評価年月日	令和元年5月17日	2020年7月2日			

事務事業名	国保診療所特別会計繰出金	事業期間	～	年度	係内番号	07
担当部署	健康福祉部	高齢者・保険課	医療保険・年金係	連絡先	322	

政策 番号	01	基本 計画 体系	項目	計画CD	計画名称	施策の 柱CD	施策の柱の名称	実行計画 の施策の 柱におけ る指標と の関連度	低					
			基本計画①	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)							
			基本計画②	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)							
			実行計画	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)							
予 算 事 業 名		国保診療所特別会計繰出金			会計コード	01	款	04	項	01	目	01	事業	11
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		茅野市国民健康保険診療所特別会計では、地域の方に必要な医療を提供し、また、地域医療の充実のため、リバーサイドクリニック・泉野診療所・北山診療所の3診療所を運営しています。会計方式は地方公営企業会計にて行い、独立採算が基本ですが、北山診療所開設の初期投資等により医業収益が悪化しているため、診療所運営の安定をと地域医療の充実を図る必要があるため、北山診療所の赤字相当額及び地方公営企業の繰出基準に基づき医療機器の購入費に対する半額の繰出しを行う。												
現状と背景 (どうして)		診療所事業の主体となるリバーサイクリックの患者数は増加傾向にありますが、無医地区で地元の要望により運営している泉野診療所は週1、北山診療所は平成26年10月から常勤医師を配置しており、平成22年から3年続けて赤字決算でしたが、平成25年からは患者数の増と一般会計からの繰入れにより黒字決算となっています。												
目的	受益者 (誰のために)	茅野市国民健康保険診療所を利用する地域の方												
	対象 (直接働きかける)	茅野市国民健康保険診療所会計												
	意 (どんな状態にしたいか)	茅野市国民健康保険診療所の安定した経営基盤による患者さんへの安心した医療サービスの提供と、経営的な余力による医療機器の充実に伴う医療の質の向上による患者サービス及び地域医療の確保。												
手段・方法 (どうやって)	国民健康保険診療所 に対し、繰出しを行う ・ 公営企業繰出基準に基づく繰出し ・ 経営状況に応じた繰出し ・ 経営状況の検証及び繰出し基準の検討を行う。													
	評価 指標 の 作成	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など							最終目標値		
1		地域医療の充実と安定経営	繰出金の交付	回数								1		
2														
3														
変更履歴														
成果 指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など							最終目標値			
	1	安定経営	医業収支比率	%	(医業収益/医業費用) × 100							100		
	2	経営安定	総収支比率	%	(総収益/総費用) × 100							100		
	変更履歴													

実 施 状 況 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	7,442,000	10,050,000	11,032,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	7,442,000	10,050,000	11,032,000			
	活動 指標	繰出金の交付	目標	回数	1	1	1	
			実績	回数	1	1		
達成率			%	100.00	100.00	-	-	
-		目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	
成果 指標	医業収支比率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	98	92			
		達成率	%	98.23	92.20	-	-	
	総収支比率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	103	96			
		達成率	%	102.98	96.20	-	-	
備 考	成果指標については、決算確定後に入力。							

事務事業名		国保診療所特別会計繰出金		事業期間	~	年度		係内番号	07	
担当部署		健康福祉部 高齢者・保険課		医療保険・年金係		連絡先	322			
事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度				
	変果動指要標因分	北山診療所の赤字補填額の減額による減少 病院の建設改良に要する経費(機器購入)の繰出基準の見直しを行い、単価100万以上の機器に対し、1/2を支援。	北山診療所の前年度赤字分の減少による補填額の減。 病院の建設改良に要する経費として、医療機器リース料×1/2を支援。(R1から5年間リース)							
	成果	繰入れ基準に基づき、適正に繰出しを行った。	繰入れ基準に基づき、適正に繰出しを行った。							
	課題	北山診療所の赤字補填額については、患者数の増により、年々減少している。今後は早期に赤字補填額の廃止を目指す	北山診療所の赤字補填額については、患者数の増により、年々減少している。今後も患者数の確保を図り、早期に赤字補填額の廃止を目指す。							
	改革・改善の方向性	現状維持 縮小	現状維持 縮小							
改革・改善の方向性	成果	診療所経営の安定を図り、地域医療の充実を図るため、今後も事業継続の必要がある。 北山診療所の赤字補填については、平成26年度に医師が常勤により患者数も増加傾向のため、赤字補填額の廃止を目指す。	診療所経営の安定を図り、地域医療の充実を図るため、今後も事業継続の必要がある。 北山診療所の赤字補填については、診療内容の充実により、令和4年度当初予算での廃止を目指す。							
	策び容									
作成担当者		笹岡俊江		笹岡俊江						
最終評価責任者		平澤精一		平澤精一						
最終評価年月日		令和元年5月17日		2020年7月2日						

事務事業名	保健福祉SC一般事業	事業期間	～	年度	係内番号	01
担当部署	健康福祉部	保健福祉サービスセンター	保健福祉サービスセンター	連絡先		

政策 番号	01	基本計画①	01	地域福祉計画	0203	日常生活支援(総合的支援体制)	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	01	地域福祉計画	0203	日常生活支援(総合的支援体制)								
		実行計画	01	地域福祉計画	0203	日常生活支援(総合的支援体制)								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	保健福祉SC一般事業				会計コード	01	款	03	項	01	目	08	事業	02
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	保健福祉サービスセンターは、3層（保健福祉サービス地域）での総合相談窓口として設置された。相談を切り口として、利用者を取り巻く環境や世帯全体を見据えたファミリーサポートの視点から、事例を通して保健福祉分野に係る社会資源を繋ぎ合わせている。総合相談に携わる職員の技術の向上を図るとともに、より専門性の高い関係各課との連携や重層的な相談体制を構築する。													
現状と背景 (どうして)	少子高齢化社会の延伸、高齢者世帯の増加、核家族化等により世帯ごとの問題解決力が低下するとともに、地域社会での人間関係の希薄化、地域での支え合いの力の弱体化が進んできている。													
目的	受益者 (誰のために)	茅野市に居住し支援を必要とする者												
	対象 (直接働きかける)	同上												
手段・方法 (どうやって)	意 図 (どんな状態にしたいか)	相談・訪問活動を通じ、相談者が抱える問題点やニーズを把握し、迅速かつ適切に対応し支援することで、最期までその人らしく安心して地域で生活できる。												
		<ul style="list-style-type: none"> 個々の抱える問題点やニーズを把握するため、窓口及び訪問による相談・情報提供を行う。 把握した問題に応じた適切な対応を検討し、ニーズにあったサービスの紹介、事業者の情報提供、サービス利用に至るまでの調整を行う。 関係機関や事業者との情報交換・連携により、共に問題解決する意識を持ちながら在宅生活を支援する。 サービス導入後の状況把握を定期的に行い、対象者がより満足感をもって自立した生活を送れるよう支援する。 												
評価 指標 の 作 成	活動 指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	総合相談の実施	相談対応件数	件	電話・来所・訪問等による年間相談対応延件数	10,000							
		2												
	3													
	変更履歴													
	成果 指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
1	サービスや方針が決定された事例数	相談対応人数	人	電話・来所・訪問等による年間相談対応実人数	4,000									
2														
変更履歴														

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円		11,631,850	12,075,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円		432,000	5,223,000			
	一般財源	円		11,199,850	6,852,000			
	活動 指標	相談対応件数	目標		10,000	10,000		
			実績		10,203			
			達成率	%	—	102.03	—	—
	—	—	目標					
			実績					
			達成率	%	—	—	—	—
—	—	目標						
		実績						
		達成率	%	—	—	—	—	
成果 指標	相談対応人数	目標		4,000	4,000			
		実績		4,260				
		達成率	%	—	106.50	—	—	
—	—	目標						
		実績						
		達成率	%	—	—	—	—	
備 考	令和元年度より機構改革及び予算科目統合・変更を行ったため、令和元年年中評価よりシートを改めた。							

事務事業名		保健福祉SC一般事業		事業期間	～	年度		係内番号	01	
担当部署		健康福祉部	保健福祉サービスセンター	保健福祉サービスセンター		連絡先				
事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度				
	（成果） （要因分析）	各種制度の適応や、各事業者・支援者との連携等によって、全ての相談者への対応方針を決定できた。	相談対応件数、相談対応人数ともに目標値は達成できた。相談体制が変わったことにより、介護保険に関する相談件数が減少した。							
価値（CHECK）	成果	SC全体としてのチームアプローチの手法を用い、相談者の主訴だけでなく、潜在的なニーズも含めた様々な課題に対応することができた。	サービスセンターへの来所者は、高齢者・障害者ともに増加しており、センターが地域住民にとってより身近な存在としての認識が広がっていると考えられる。							
	課題	福祉のプロとして一人ひとりの力量をさらに引き上げ、チームアプローチの充実を図る必要がある。	高齢者支援の入り口である介護認定調査をセンター業務から分離したことによる影響について検討する必要がある。							
改革	成果	拡充	拡充							
	コスト	現状維持	現状維持							
改善の方向性（ACT）	改善の方向性の内容	ケースワーク業務以外の様々な事務を整理し、定型的事務の集中化を図る。また、各SCで行われるチームアプローチのノウハウをSC間で共有し、技術を蓄積する。	成年後見、生活困窮、虐待など専門的な対応を求められるケースが増加している。これに対応するため、処遇困難ケースの支援プランの立案と、サービスセンターを超えた事例検討を定着化することにより、センター全体のレベルアップを図る。							
	策 び 容									
作成担当者		金井美代子								
最終評価責任者		丸茂丈実								
最終評価年月日		2020年7月3日								

事務事業名	リバーサイドクリニック診療所事業		事業期間	2001 ~	年度	係内番号	01
担当部署	健康福祉部	リバーサイドクリニック	管理業務係	連絡先		72-7010	

政策 番号	01	基本 計画 体系	項目	計画CD	計画名称	施策の 柱CD	施策の柱の名称	実行計画 の施策の 柱におけ る指標と の関連度	高
			基本計画①	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)		
			基本計画②	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)		
			実行計画	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)		

計 画 目 的	予 算 事 業 名	茅野市国民健康保険診療所特別会計	会計コード	24	款	項	目	事業
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	診療所を設置し、市立の無床診療所として地域の中核病院との機能分担・連携を行うなかで、日常病の診療・慢性疾患の管理・在宅医療を中心に担い、市民の健康保持に必要な医療及び介護を提供する。							
	現状と背景 (どうして)	無床診療として外来診療に加え、訪問診療・夕方診療等を行っているが、少子化及び医療の冬の時代（国が医療費抑制のために医療抑制政策、例えば患者の負担増等を取り、所得の低い者は受診を抑制することとなり、治療の遅れにより重症化の傾向になっている）を迎えるなかで、独立採算の公営企業診療所として将来に向けて経営していける基盤を固めたい。						
意 図 (どんな状態にしたいか)	受 益 者 (誰のために)	健康保持に必要な医療及び介護等を必要とする者。						
	対 象 (直接働きかける)	健康保持に必要な医療及び介護等を必要とする者。						
手 段 ・ 方 法 (どうやって)	新規(初診)の外来患者数を増やすことにより、外来収益の確保を図り、公営企業会計の診療所として、より経営の健全化を図る。							
	地域の開業医・診療所間の連携を密にすること及び地域の中核病院との機能分担により、通常の時間内の患者数の増及び病院からの逆紹介患者数の増を図る。また、訪問診療等には更に力を入れ、これらによる診療内容の充実(結果としての日当点の増)とともに初心患者の増を図る。							

評 価 指 標 の 作 成	活 動 指 標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	外来患者を増やす	1日当たりの平均患者数	人	延患者数 ÷ 診療日数	68
		2	日当点を増やす	1人1日当たりの日当点	点	外来収益 ÷ 延患者数	866
	3						
	変 更 履 歴						
	成 果 指 標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	外来収益	外来収益	千円		171,513
		2	医業利益	医業利益	千円	医業収益 - 医業費用	10,000
		変 更 履 歴					

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	75,218,154	86,789,804	92,929,000			
		国庫支出金	円	0	0	1,000			
		県支出金	円						
		地方債	円			1,000			
	その他特定財源	円	6,686,000	10,050,000	11,032,000				
	一般財源	円	68,532,154	76,739,804	81,895,000				
	活 動 指 標	1日当たりの平均患者数	目標	人	58	64	70		
			実績			59			
		達成率	%	-	92.66	-	-	-	
1人1日当たりの日当点		目標	点	818	866	823			
		実績			797				
達成率		%	-	92.03	-	-	-		
成 果 指 標	外来収益	目標	千円	138,898	158,513	165,916			
		実績			133,707				
	達成率	%	-	84.35	-	-	-		
	医業利益	目標	千円	5,477	807	7,500			
		実績			(7,242)				
	達成率	%	-	-897.40	-	-	-		
備 考									

事務事業名		リバーサイドクリニック診療所事業		事業期間	2001	～	年度		係内番号	01		
担当部署		健康福祉部	リバーサイドクリニック	管理業務係			連絡先	72-7010				
事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度						
	（成果）	診療報酬の改定により、1人1日当たりの日当点が上がり、外来収益は増えている。しかし、1日当たりの患者数が伸びないため、前年度以上の数字は残せても費用の伸びを補うには厳しい状況となった。	患者数の増により中途までは経営状況は良かったが、12月になり記録的な暖冬でインフルエンザが流行しなかったことと、1月以降、新型コロナの影響で患者の受診抑制が働いたこと、感染拡大を防ぐために症状の安定した患者には電話で投薬のみとし、来院しないようにして検査も抑制したため、赤字化してしまった。									
	（課題）	外来患者は減っているものの、ニーズの多い訪問等の在宅患者は増加している。これに力を入れることで収益の確保に努めたい。また、将来的に小児科を標榜することにより、小児加算による収益の増と患者の増につなげていきたい。	小児科を標榜することにより加算を算定することはできたが、新型コロナの影響で患者自身の受診抑制と、診療所側でも来院しないように働きかけたため、収益の増とならなかった。									
	（改善策）	医師の退職による患者離れによって赤字決算となったこともあったが、北山診療所の赤字相当分を一般会計からいただいで黒字決算となっている。公営企業会計を採用しているため、減価償却費が費用として計上されるが、患者の確保が継続的な課題となる。	年間の患者数では前年度を上回ったが、新型コロナの影響で1月以降患者の減少と、投薬のみとしたため診療単価が極度に落ち込み、令和2年度においても患者の減が見込まれる。									
改革の方向性	（成果）	現状維持	現状維持									
	（コスト）	現状維持	現状維持									
改善の方向性	（成果）	在宅医療の充実により収益の確保を図ることと、患者の確保が必要である。小児科を標榜することにより新規の患者の確保と病診連携により、逆紹介により継続的に患者を確保していきたい。コスト面については、電子カルテの入れ替えにより、32年度より減価償却費が大幅に増えるため、効率的な運用によりコストの削減に努めていかなければならない。	消費税率の引き上げ、減価償却費の増、パソコンのOSサポートの終了に伴う更新等により支出額は増加となった。一方、診療報酬の改定は無く消費増税分は独自で負担せねばならなかったことと、新型コロナの影響で患者の減と診療単価が落ち込んだことにより収益の確保ができなかった。逆に、診療単価が落ち込んだため、材料等のコストの削減はできた。									
	（コスト）											
作成担当者		宮坂浩雄		宮坂浩雄								
最終評価責任者		安藤親男		安藤親男								
最終評価年月日		2019年1月25日		2020年7月31日								

事務事業名	泉野診療所事業(出張診療所)	事業期間	2001 ~	年度	係内番号	02
担当部署	健康福祉部	リバーサイドクリニック	管理業務係	連絡先	72-7010	

政策 番号	01	基本 計画 体系	項目	計画CD	計画名称	施策の 柱CD	施策の柱の名称	実行計画 の施策の 柱におけ る指標と の関連度	高	
			基本計画①	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)			
			基本計画②	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)			
			実行計画	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)			
予 算 事 業 名		茅野市国民健康保険診療所特別会計			会計コード	24	款	項	目	事業
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		診療所を設置し、市立の無床診療所として地域の中核病院との機能分担・連携を行うなかで、日常病の診療・慢性疾患の管理・在宅医療を中心に担い、市民の健康保持に必要な医療及び介護を提供する。								
現状と背景 (どうして)		地理的に交通の便が悪く、常時診療をしている医療機関への通院困難を解消するために出張診療所を開設して医療サービスの提供に努めているが、平成15年の診療報酬改定により日当点が下がったため、赤字経営となっている。								
目 的	対象 (誰のために)	健康保持に必要な医療及び介護等を必要とする者。								
	対象 (直接働きかける)	健康保持に必要な医療及び介護等を必要とする者。								
	意 (どんな状態にしたいか)	公営企業会計の出張診療所であることから、より経営の健全化を図るべきであるが、以前より受診している高齢の患者のみであり、新規の患者も見込めず、将来的にはリバーサイドクリニックで訪問診療をするべきと思われる。								
手 段 ・ 方 法 (どうやって)	通院患者は高齢者のみで新規患者の増は見込めないため、診察に訪れることが困難になっていく患者から、医師及び家族との話し合いの中で、リバーサイドクリニックの患者として徐々に訪問診療に切り変えていきたい。しかし、訪問診療となれば、現状患者の負担は500円程度であるが、これが2,500円程度となること、診療所で人と出会うことを楽しみにしている者もいること、家には来て欲しくないなど、様々な事情があることから、訪問や介護の相談は医師に申し出るような張り紙をし、年間一人ずつでも訪問に切り替えていければと計画を立てている。									
評 価 指 標 の 作 成	活動 指 標	行政が活動することで作り出すもの		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		1	医療の提供を続ける	1日当たりの平均患者数	人	延患者数 ÷ 診療日数			7	
		2	医療の質を落とさない	1人1日当たりの日当点	点	外来収益 ÷ 延患者数			542	
	3									
	変更履歴									
	成果 指 標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		1	外来収益	外来収益	千円				1,895	
		2	医業利益	医業利益	千円	医業収益 - 医業費用			-1,500	
	変更履歴									

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	1,464,945	1,498,277	1,500,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
	その他特定財源	円							
	一般財源	円	1,464,945	1,498,277	1,500,000				
	活 動 指 標	1日当たりの平均患者数	目標	人	7		7		
			実績			6			
		達成率	%	-	85.71	-	-	-	
1人1日当たりの日当点		目標	点	550	542	616			
		実績			608				
達成率		%	-	112.18	-	-	-		
成 果 指 標	外来収益	目標	千円	1,783	1,895	2,112			
		実績			1,774				
	達成率	%	-	93.61	-	-	-		
	医業利益	目標	千円	(1,397)	(1,500)	(1,550)			
		実績			(1,527)				
	達成率	%	-	101.80	-	-	-		
備 考									

事務事業名	泉野診療所事業(出張診療所)	事業期間	2001 ~	年度	係内番号	02
担当部署	健康福祉部	リバーサイドクリニック	管理業務係	連絡先	72-7010	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分)		診療報酬の改定により、1人1日当たりの日当点は上がったものの、患者数の減により収益は前年度とほぼ同じ規模で推移している。以前よりの高齢の患者で新規の患者の確保は望めないため、赤字幅は今後増加していくものと思われる。	新規の患者の確保はなく、固定患者のみであることから収入はほぼ前年度並みで、費用は消費税の影響で若干の増となり、収支は前年度より悪化となった。		
総合評価	成果	自治体立の診療所であるため、時として不採算部門を担っていかなければならない。	自治体立の診療所であるため、時として不採算部門を担っていかなければならない。			
	課題	年ごとに患者の高齢化が進み、患者数も減っていき、赤字額の増が見込まれる。診療体制等についての検討が必要と思われる。	年ごとに患者の高齢化が進み、患者数も減っていき、赤字額の増が見込まれる。施設も老朽化しており、閉院も視野に入れていかなければならない。			
改革	翌々年度方向性	成果 コスト	縮小 縮小			
	改善の方向性の内容	通院患者は高齢者のみで新規の患者は見込めない。また、既存の患者も診療に訪れることが困難になることが想定され、診療体制等について検討する。	通院患者は高齢者のみで新規の患者は見込めない。また、既存の患者も診療に訪れることが困難になることが想定され、診療体制等について検討する。			
作成担当者	宮坂浩雄	宮坂浩雄				
最終評価責任者	安藤親男	安藤親男				
最終評価年月日	2019年1月25日	2020年7月31日				

事務事業名	北山診療所事業	事業期間	2001 ~	年度	係内番号	03
担当部署	健康福祉部	リバーサイドクリニック	管理業務係	連絡先	72-7010	

政策 番号	01	基本 計 画 体 系	項目	計画CD	計画名称	施策の 柱CD	施策の柱の名称	実行計画 の施策の 柱におけ る指標と の関連度	高	
			基本計画①	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)			
			基本計画②	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)			
			実行計画	01	地域福祉計画	0204	日常生活支援(地域医療の充実)			
予 算 事 業 名		茅野市国民健康保険診療所特別会計			会計コード	24	款	項	目	事業
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		診療所を設置し、市立の無床診療所として地域の中核病院との機能分担・連携を行うなかで、日常病の診療・慢性疾患の管理・在宅医療を中心に担い、市民の健康保持に必要な医療及び介護を提供する。								
現状と背景 (どうして)		平成24年8月より茅野市立の診療所として北山診療所を再開し、市内中心地から遠く、医療機関への通勤困難を解消するために医療サービスの提供に努めているが、平成26年9月までは常勤医師の確保ができなかった。平成26年10月からは常勤医師が配置され徐々に患者数は増えてきているが、赤字経営が続いている。								
目的	対象 受益者 (誰のために)	健康保持に必要な医療及び介護等を必要とする者。								
	対象 (直接働きかける)	健康保持に必要な医療及び介護等を必要とする者。								
意 (どんな状態にしたいか)	公立の診療所であることから時として不採算部門を担って責任があるが、公営企業会計の診療所であることから、収益を増やすこと、減らさないことを目標に経営の健全化を図る。									
手段・方法 (どうやって)	平成26年10月から常勤医師が配置され、地域への周知を行い、高齢化社会を迎える中で、訪問診療等の在宅医療を積極的に行い患者を徐々に増やしてきた。しかし地域がら高齢者以外の新規患者の確保は難しく、患者数は頭打ち状態が続いている。公立の診療所であることから時として不採算な部門を担っていかなければならないが、収益を減らさない努力は続けていかなければならない。									
評 価 指 標 の 作 成	活動 指 標	行政が活動することで作り出すもの		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		1	医療の提供を続ける	1日当たりの平均患者数	人	延患者数 ÷ 診療日数			16	
		2	医療の質を落とさない	1人1日当たりの日当点	点	外来収益 ÷ 延患者数			1,011	
	3									
	変更 履歴									
	成 果 指 標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		1	外来収益	外来収益	千円				38,822	
		2	医業利益	医業利益	千円	医業収益 - 医業費用			-8,000	
	変更 履歴									

実 施 状 況 （ D O ）	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	22,403,570	19,630,978	21,950,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
	その他特定財源	円	756,000						
	一般財源	円	21,647,570	19,630,978	21,950,000				
	活 動 指 標	1日当たりの平均患者数	目標	人	13	16	16		
			実績			13			
		達成率	%	-	80.63	-	-	-	
1人1日当たりの日当点		目標	点	1,030	1,011	1,035			
		実績			1,008				
達成率		%	-	99.70	-	-	-		
成 果 指 標	外来収益	目標	千円	32,162	38,822	40,240			
		実績			30,847				
	達成率	%	-	79.46	-	-	-		
	医業利益	目標	千円	(7,723)	(9,191)	(7,800)			
		実績			(7,797)				
	達成率	%	-	84.83	-	-	-		
備 考									

事務事業名		北山診療所事業		事業期間	2001	～	年度		係内番号	03
担当部署		健康福祉部		リバーサイドクリニック		管理業務係		連絡先		72-7010
事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度				
	変果動指要標因分)	診療報酬の改定により、日当点は上がっているものの、患者数の減により収益は前年度とほぼ同じである。市内中心から遠いため、地元の高齢者と児童が患者層という特徴があり、新規の患者は余り見込めず、赤字経営であることから、赤字相当額を一般会計からいただいている。	1月以降、新型コロナの影響で患者が落ち込んだことと、訪問等も控えなければならなかったことにより診療単価が落ち込み前年度並みの収益を上げることができなかった。消費増税の影響もあり費用も増え、赤字額は前年度を上回ってしまった。							
	成果	自治体率の診療所であるため、時として不採算部門を担っていかなければならない。	自治体率の診療所であるため、時として不採算部門を担っていかなければならない。							
	課題	患者の大幅な増が見込めず、赤字経営となっているため、赤字相当額を一般会計からいただいている。常勤の医師は高齢であり、今後の医師確保が困難なことが予想される中で、今後のあり方について行政側の判断が必要となる。	令和2年度末で医師が退職の意向を示しており、後任の医師の確保にも目途が立った。医師の交代により患者の確保が必要となっていく。							
改革	翌々年度方向性	成果 現状維持	現状維持							
	コスト	縮小	現状維持							
改善の方向性	改善の方向性の内容	市内の中心から遠いため、患者は地元の高齢者と児童で大部分を占めている。在宅医療等、診療単価の高い医療を担っているが、黒字になるためには大幅な患者増が必要となるが、立地条件を考えると非常に難しい。今後の運営方法等について検討を行う。	市内の中心から遠いため、患者は地元の高齢者と児童で大部分を占めている。在宅医療等、診療単価の高い医療を担っているが、黒字になるためには大幅な患者増が必要となるが、立地条件を考えると非常に難しいが、令和3年度以降医師が交代することを機に徐々に患者の確保を進め、数年後には赤字を解消していきたい。							
策	策									
作成担当者	宮坂浩雄		宮坂浩雄							
最終評価責任者	安藤親男		安藤親男							
最終評価年月日	2019年1月25日		2020年7月31日							

事務事業名	コミュニティ運営協議会負担金(地域福祉推進事業負担金)	事業期間	～	年度	係内番号	03
担当部署	健康福祉部	地域福祉課	福祉21推進係	連絡先	303	

政策 番号	01	基本計画①	01	地域福祉計画	0201	地域の支えあい(具体的な取組)	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	01	地域福祉計画	0201	地域の支えあい(具体的な取組)								
		実行計画	01	地域福祉計画	0201	地域の支えあい(具体的な取組)								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名		社会福祉総務費一般事業費			会計コード	01	款	03	項	01	目	01	事業	03
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		地区コミュニティ運営協議会の活動の一部として、地区社会福祉協議会の活動があります。地域福祉活動の推進を図るため、地区社会福祉協議会の活動支援として負担金を交付します。 ※地区社協運営費として、平成17年度までは茅野市社協からの補助金、平成18年度からは市から地区社協負担金、平成28年度からは名称を「地域福祉推進事業負担金」として交付しています。												
現状と背景 (どうして)		地域での様々な問題を解決するためには、より身近な地域での地域福祉活動の推進が必要となります。そして、地域のつながりを活かして、地域の実情に即した活動や助け合いを進めるため地区社会福祉協議会の活動が重要となっています。具体的には、各地区で地域での地域福祉の推進と活動の目標となる「地域福祉行動計画」を策定し、計画的に推進しています。												
目的	受益者 (誰のために)	地区社会福祉協議会												
	対象 (直接働きかける)	地区社会福祉協議会												
留意 図 (どんな状態にしたいか)	負担金の有効活用により地区社会福祉協議会の活発な活動を促進します。また、地域福祉行動計画の進行管理状況を把握し、地域福祉活動の推進を図ります。													
	手段・方法 (どうやって)		各地区のコミュニティ運営協議会に負担金を交付することにより、地区社協の活動における財政的な負担の軽減を図ります。											
評価 指標 の 作成	活動 指標	行政が活動することで作り出すもの		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		1	適切な負担金の交付	交付数	地区	負担金を交付した地区コミュニティ運営協議会の数			10					
		2												
		3												
	変更履歴													
	成果 指標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		1	地域福祉行動計画の推進	進行管理実施数	地区	ふりかえりの会などの進行管理を実施した地区(この地区は各区)の数			16					
		2												
		変更履歴												

実 施 状 況 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	2,280,000	2,280,000	2,280,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	2,280,000	2,280,000	2,280,000			
	活動 指標	交付数	目標	10	10	10		
			実績	10	10			
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	-
		-	目標	-				
	実績		-					
	達成率	%	-	-	-	-	-	
	成果 指標	進行管理実施数	目標			16		
実績								
達成率		%	-	-	-	-	-	
-		目標	-					
実績	-							
達成率	%	-	-	-	-	-		
備 考	第三次地域福祉行動計画策定により2020年度より成果指標設定							

事務事業名	コミュニティ運営協議会負担金(地域福祉推進事業負担金)		事業期間	~	年度	係内番号	03
担当部署	健康福祉部	地域福祉課	福祉21推進係			連絡先	303

事後評価	項目	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	〜析	成果指標は平成31年度の地域福祉行動計画の策定状況により決定するが、地域福祉行動計画の推進により、地域福祉活動が計画的・継続的に実施できるよう促していきたい。	成果指標は平成31年度の地域福祉行動計画の策定状況により決定する。		
価値	総合評価	申請に基づく負担金交付事務の実施を適切に行うことで、地区社会福祉協議会活動の支援となり、地域の福祉やコミュニティ活動の充実につながっている。	地区社会福祉協議会活動の支援となり、地域の福祉やコミュニティ活動の充実につながっている。			
	課題	地域福祉行動計画の進行管理状況を把握し、具体的に実践する福祉活動の実施を促していきたい。	地域福祉行動計画の進行管理状況を把握し、具体的に実践する福祉活動の実施を促していきたい。			
改革	成果	拡充	拡充			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に暮らす一人ひとりが地域福祉行動計画を実践していけるよう地域の人への働きかけや周知の方法の検討が必要である。 ・コミュニティ活動の推進に係る他の助成制度と整合をとり、効果的な活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に暮らす一人ひとりが地域福祉行動計画を実践していけるよう地域の人への働きかけや周知の方法の検討が必要である。 ・コミュニティ活動の推進に係る他の助成制度と整合をとり、効果的な活用を推進する。 ・コミュニティセンターのあり方検討の動向によって「保健福祉分野」の関わり方を部内で検討する。 			
作成担当者	田中 真優子	小林 真琴				
最終評価責任者	井出 弘	井出 弘				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				